



出口 汪 著 Hiroshi Deguchi

「考える力」を身につける本

Forest  
**2545**  
*Shinsho*



## はじめに

『カリスマ受験講師の「考える力」をつける本』（三笠書房）を刊行したのが、2000年の12月、幸いにもこの本は多くの読者に受け入れられ、ベストセラーとなった。

あのころは、まだ、予備校の講師が仕事の中心だった。

だから、主に受験生を対象に「考える力をつける」ための勉強法を提案したのだが、その後、私の関心はビジネスパーソンの勉強法へと移っていった。

私の仕事自体が、予備校の仕事から教育全般へと広がっていきにしたがって、ビジネスパーソンにこそ「考える力」をつけるための勉強法が必要ではないかと思ったからだ。

そこで、今回、三笠書房版をビジネスパーソン向けに全面的に書き直そうと思った。本書は、まさに、ビジネスパーソンが生涯にわたって必要なスキルを身につけるための、本物の学習法となっている。

人が人である所以ゆえんは、絶えず学び続けることにあり、私は信じている。人は生きている限り、経験からあらゆるものを学び取っていく。それは、考え続けることでもある。

パスカルは、「人は考える葦あしである」といった。

私はこの言葉を実に単純に理解している。人は葦のようにちっぽけな存在だが、考え続けることによって、初めて人たりうると。

私たちは自分の置かれていた環境を少しでも正確に理解し、より豊かに生きたいと願っている。ところが、現代は膨大な情報の波に流され、自分がいまどこにいて、どんなところへ行こうとしているのか、つかみづらくなっている。

そればかりではない。現在、私たちは歴史的岐路に立っている。いままでの価値観がすべて崩壊し、既成のやり方がことごとく通用しなくなっている。

**いまこそ、私たちは学ばなければならぬ。**より深く、正確に知り、それによって、考えねばならぬ。

私たちに必要なのは、高度な専門知識ではない。世界全体を見渡し、歴史という直線的な時間の流れの中で自分の置かれてある位置を知るといふ俯瞰的視点である。

そのために、もう一度、自分の勉強法を見直してみるのも、無駄ではないはずである。勉強は、決して苦痛なものではない。人生を豊かに生きるための最強の武器であり、それどころか、その人の生き方にもつながるものである。

一生のどこかで**勉強の面白さに気づいた人と、そうでない人**——結局、人はその2つに大別されるのではないか。

そして、勉強が楽しくなるためには、正しい勉強方法を知らなければならぬ。有効な頭の使い方を覚えなければならぬ。

それだけで豊穰な人生を手に入れることができるのだ。

高校生、受験生、大学生、社会人、そして、主婦、それぞれの人がどのような勉強の仕方をしてきたか。本書がそれを見直すきっかけになると同時に、より有効な勉強をするための契機になればいいと思う。

本書の至るところに、ヒントがちりばめられている。それらは知の起爆剤であるとともに、勉強法のヒントであり、そのまま人生のヒントにもなるであろう。

第1章は、これからの時代はどのように大きく変わるのか、新しい時代にふさわしい勉強法とは何か、「考える力」とは何かを、わかりやすく説明した。本書全体の指針となる大切な章である。

第2章は、すべての学力の基礎となる「論理力養成」の方法である。論理力とは先天的なものではなく、後天的なもので学習・訓練によって習得すべきものである。ところが、その方法を知らないために、論理を無視した学習法になりがちである。この章を熟読するだけでも、勉強法が一変するだろう。

第3章は、「記憶術」。実は、論理力と記憶力は表裏一体である。この両者が車の両輪のようにうまく働くことによって、最高の効果を生み出すことができるのである。

この章では、確実に記憶できるさまざまな具体的な方法を紹介する。

第4章は、すべての学習の基礎学力ともいうべき、「論理的な読解法」の提案である。文章を論理的に読み、論理的に理解できるからこそ、記憶も可能になり、論理的に考えることができることになる。文章を論理的に読解できない人は、真の勉強法を確立できないばかりか、「考える力」を養成することも不可能である。

第5章は、「想像力」と、「想像力を養成する勉強法」である。ビジネスにおいて、さらには人生において成功するには、論理力だけではなく、想像力や創造力が必要である。そうした力を養成するための勉強法を具体的に提案する。この章に書かれた勉強法を実践すれば、退屈で凡庸に思えた世界が、みずみず瑞々しいものへと再生されるだろう。

第6章は、本物の力を養成するための「具体的な勉強法」を提案している。「考える力」をつけるためには日常生活において何をしたらいいのか、読書の仕方から新聞

の読み方まで、この章を読むことで、知的生活のあり方が変わるはずである。

第7章は、実際に私が行う講義を模した「現代文の紙上講義」を受けてもらおうと思う。もちろん、大学入試の難問を扱ってはいるのだが、ビジネスパーソンが「考える力」を身につけるために、非常に実践的な講義なのである。

この講義によって、論理的に文章を読み、論理的に考え、論理的に表現することがどのようなものなのか、具体的に理解することができるはずだ。

それと同時に、ものを考えるとはどういうことか、本物の学力とは何か、ありありと見えてくることだろう。

本書によって本物の学力が身につく、それが生涯にわたって人生を切り開くあなたの武器となるように、切に祈っている。

出口 汪



## 目次

はじめに…………… 3

## 第1章

# 「本物の勉強」は楽しい

…………… 19

勉強は「楽しいから」するもの…………… 20

いままさに、「パラダイム転換」のとき…………… 24

「模倣教育」からの脱却…………… 25

「情報社会」への移行…………… 27

「ビジネスパーソン」の勉強法…………… 28

膨大な情報を生かす「論理力」…………… 30

間違った方法では、努力の「意味がない」…………… 31

意見の違う「他者」との「合意」には論理力…………… 33

知識を生きたものとする「本物の記憶力」…………… 34

「研ぎ澄まされた感性」を持つとう…………… 36

論理力や感性は「後天的に身につけられる」…………… 37

## 第2章

「論理力」を身につける…………… 41

「いままでの勉強法」に決定的に欠けているもの…………… 42

物事の筋道を「理解し、説明する」力…………… 42

なぜ、日本人は「論理的に考える」のが苦手なのか？…………… 44

論理的な言語「英語」に学ぶ、ものの考え方…………… 46

「ロジック」がなければ、世界で通用しない…………… 49

「論理」を使えば簡単に理解できる……………52

子供の会話の中にも「論理(ロジック)」はある……………52

大学入試の「現代文」につまずく理由……………55

文章を「速く、正確に」読み取る方法……………57

筆者の主張は「引用」「比喩」で繰り返し返される……………61

「頭を使わずに」文章を読み解く秘訣……………65

### 第3章

「一生忘れない」「記憶術」……………69

一度覚えたら一生忘れない「記憶術」……………70

なぜ、勉強したことを「覚えていられない」のか?……………70

忘れないための「頭の使い方」……………74

1年経つても、記憶を100%維持できる……………76

## 挫折しらずの「記憶術」……………80

1冊を徹底的にモノにする……………80

誰もが陥りやすい、失敗の「勉強パターン」……………82

面白いほど頭に入る「雪だるま式記憶法」……………84

語学や歴史、専門用語などの記憶法……………86

「単語集」の活用①「1日のノルマ」は決めない……………87

「単語集」の活用②「1年かけて、1冊をモノにする」……………88

「単語集」の活用③「歯が立たないなら、いったん捨てる」……………90

「俯瞰的視点」による記憶法……………92

「覚えるためのノート」のつくり方……………95

「重要事項の確認」は、問題集が効率的……………97

## 第4章

「読解力」を深める……………101

「常識」を捨てる、新しい世界が見えてくる……………102

「おやっ？」と思うところに、いいことが隠されている……………102

男は女の、大人は子供の視点で「ものを見る」……………104

「ニュートン」もレトリックを駆使していた……………106

レトリックを学ぶ、ひと味違った「映画鑑賞法」……………109

あえて「いいこと」の逆手を取る……………112

頭が良くなる近道は、

「演繹法」と「帰納法」、そして「弁証法」にある……………118

「常識を疑うこと」から始める……………118

「演繹的思考」の鍛え方……………122

なぜ、「賢い主婦は買い物上手」なのか？……………125

出口式「現代文読解の法則」は、演繹法から生まれた……………126

「視点」「価値観」を、自由自在に変えるテクニク……………130

## 第5章

「想像力」と「創造力」で賢い頭をつくる……………135

オリジナリティーは「真似ること」から生まれる……………136

「いい文章を真似る」効用……………136

「スキース達法」に学ぶ、「考える力」の養い方……………140

「正解」を導くために必要な、これだけの能力……………144

「人と同じ考え方」では生き残れない……………146

なぜ、「一人勝ち」の時代が生まれたのか？……………146

「その他大勢」が敗者になる……………150

「映像」は論理と創造性を排除する……………152

「使われない脳」は衰える一方……………156

「創造的な思考」をどう身につけるか？……………158

「想像力を豊かにする」方法……………160

第6章

実践で「考える力」を身につける……………169

## あなたの頭脳を活性化する「12の習慣」……………170

- ① 「相手はわからない」を前提とせよ……………170
- ② 「論理のルール」にしたがって言葉を使う……………172
- ③ 話すときも、聞くときも、「明晰さ」を持って……………174
- ④ あえて「難解な言葉」を使ってみる……………175
- ⑤ テーマを持った「読書」の効用……………176
- ⑥ 「自分だけの書店」をつくる……………178
- ⑦ 「歴史を考えるとき」に知っておきたいこと……………180
- ⑧ 「物事に筋道を立てる」ための訓練……………184
- ⑨ 「歴史を理解する」勉強法……………187
- ⑩ 論理力を鍛えるための「新聞活用法」……………188
- ⑪ 「論理的な生活」をする……………189
- ⑫ 「新聞の欠点」を知る……………190



## 第7章

# 実況中継「出口の現代文講義」

195

## 実況中継「出口の現代文講義」入門編

196

## 実況中継「出口の現代文講義」本講義編

205

この「読み方」であらゆる能力を鍛えられる……………230

## 第8章

# 考える力が

# 100%身につく「ノート術」

……………231

「要約文」をつくる……………	233
要約するときの「注意点」……………	234
要約の「効力」……………	235
もつとも効率的な「評論用語」の習得法……………	236
「タイトル」をつける……………	238
さらに「思考」を深める右ページの活用……………	239
「俯瞰的な視点」「有機的な思考」……………	242
ストックノート・セカンドステージ……………	243
《ストックノートのサンプル》……………	246
おわりに……………	248